

まちひとしごと

Vol. 49

くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab
代表理事 まつ井 雅子 さん

助け合いながら 子育てできる地域をめざして



子育て中の親や子どもたちを支える活動を行う『くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab』の代表理事を務める松井雅子さんに話を聞いた。

福岡県に生まれ、幼少期は好奇心旺盛で活発な子どもだったという松井さん。高校卒業後はアメリカの大学に進学し、その後はホテル勤務やアウトドアガイドなどを経験し、帰国後は縁あって俱知安町に移住した。

この町で結婚、出産を経験したが、夫婦ともに道外出身、故郷から遠く離れた土地での子育てにはかなり苦労したという。

「親や兄弟、親戚など頼れる人が近くにいない中での子育ては本当に大変でした。精神的に落ち込む時期もあり、夫婦だけで子育てをする難しさを感じました」

移住・転入者の多い町だからこそ、地域全体で子どもを育てていくための環境、曜日関係なく働く親やその子どもたちを支える組織が必要だと感じるようになった。

そして、2019年10月、ボランティア団体『くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab』を設立。町内のさまざまな場所でサロンやイベントを開催している。

「子育てを助け合える仲間づくりや、親子が笑顔で過ごせる地域づくりを目指し、活動しています。来たときよりも元気になって帰る親や子どもの姿を見ると、活動をしていてよかったと思います」

読み聞かせの会『ぐりとぐら』のメンバーとしても活動する松井さん。会場となる絵本館にはさまざまな年齢・立場の人も受け入れてくれる魅力があると話す。

「子育て中に絵本館で話を聞いてもらって、気持ちが楽になったり、あたたかい言葉に支えられたりしました。これからもそういう場所であり続けてほしいです」

自分たちには何ができるのかと手探りの日々が続いているが、信頼できる仲間や、団体の趣旨に賛同して協力してくれる人たちのおかげで、少しずつ前進できていると話す松井さん。今後は、将来の子育て世代まで繋がる活動がしたいという。

「自分は移住者ですが、子どもたちにとってはここがふるさと。現役の子育て世代だけではなく、子どもたちが親となったときに安心して子育てができる環境をつくりたいです」

多様な時代だからこそ、子育て世代を中心に、福祉、教育など、さまざまな垣根を超えて繋がる必要があり、その架け橋となれるように活動していきたいと話す。そして最後に、松井さん自身の夢を聞いた。

「いつか、子どもたちに英語を教えたいと考えています。失敗してもいい、子どもたちのありのままを受け入れてあげられるような教室をつくりたいです」

これからの夢を語る松井さんの目は、好奇心旺盛な子どものように輝いて見えた。

※まちひとしごとは不定期連載です